

「結果の分析と指導の改善」

【社会】 < 小学校 第5学年 >

1 結果のポイント

「社会的事象についての知識・理解」について、資源ごみの処理の方法や水が家庭に運ばれる過程にかかわる知識・理解をみる問題の正答率は80%を上回っている。

岐阜県の県庁所在地の市町村名と場所についての理解をみる問題の正答率は70%程度、長良川の位置と名称についての理解をみる問題の正答率は50%を下回っている。

「観察・資料活用の技能・表現」について、昔の道具の特徴を観察し、年表に整理する技能・表現をみる問題の正答率は80%程度である。

日本における岐阜県の位置を、四方位で言い表す力をみる問題の正答率は50%程度である。

「社会的な思考・判断」について、人口の変化とごみの量の変化を比べて、学習課題を考える力をみる問題の正答率は85%程度である。

洗濯をする道具が変化したことにより人々の生活がどのように変化してきたかについて、考えたことを記述する力をみる問題の正答率は40%を下回っている。

2 結果の分析と指導方法の工夫改善

基礎学力UPのカギとなる問題

～「つまずき」とその解決策をさぐる～

(1) 「知識・理解」の力をみる問題の例

< 問題 > 5 5 (1) (2)

5 5 (1) し料5の「A」市は岐阜県の県庁所在地です。  
市の名前を書きましょう。

5 5 (2) し料5の「B」の川の名前を書きましょう。

< 結果 > 5 5 (1) 正答率 71.8% (正答...岐阜(市))

5 5 (2) 正答率 45.0% (正答...長良(川))

< 分析 >

この設問は、「岐阜県の県庁所在地の市町村名と位置」と「岐阜県内の主な川である長良川の名称と位置」を正しく理解しているかをみる問題である。(1)の誤答として、自分の住んでいる市町村名(岐阜市以外の学校)や岐阜市周辺の市名を書いたものがあった。(2)では「木曾川」「揖斐川」と書いたものがあった。その要因として、県内の市町村名や川の名前を知っていてもその位置がわからなかったことが考えられる。また、無解答が(1)で11.3%、(2)で13.5%あり、地図から市や川の名前が判断できない児童がいると考えられる。

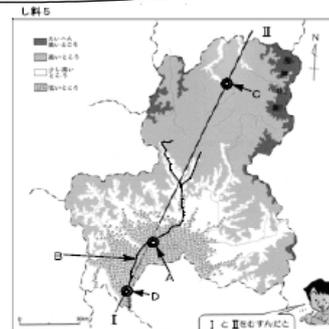
このことから、「県内の主な市町村や地形」の名称と位置、併せて「47都道府県、国内の主な山地や山脈、平野、川などの地形」の名称と位置を確実に身に付け、活用できるようにする指導を充実させる必要がある。

< 指導方法の工夫改善 >

47都道府県、県内の主な市町村の名称と位置、国内や県内の主な山地や山脈、平野、川などの地形の名称と位置を確実に身に付け、活用できるようにする指導を、各学年において繰り返し行う。

第3・4年「県の特徴」の学習において

- ・県内の主な市町村や自分たちの住んでいる市町村のまわりにある市町村の名称や位置、土地利用の様子などを、白地図に色をぬったり書き込んだりする作業的な学習を位置付ける。



第5学年の学習において

- ・農業や水産業、工業の盛んな地域や運輸の働きなどの学習で、地図や統計資料に様々な都道府県の名称が出てきた際には、その都度、その都道府県の位置を地図帳の日本地図で確認したり、学習した事柄を日本地図（白地図）に整理したりする。

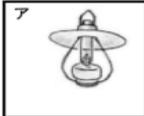
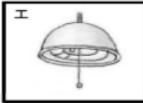
第6学年の学習において

- ・歴史的な出来事が起こった場所を日本地図で確認したり、学習した歴史的な事象と関連の深い場所を日本地図（白地図）に整理したりする。

(2)「観察・資料活用・表現」の力をみる問題の例

<問題> 3 1

3 1 太郎さんは、あかりの道具のうつりかわりについて調べ、ア～エのカードをつくって年表1の[A]～[D]に1枚ずつあてはめました。年表1の中の[B]にあてはまる道具カードはどれでしょう。もっともあてはまるものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を□に書きましょう。

道具カード	
ア 	イ 
ウ 	エ 

年表1	
使われていた時期	道具カード
約200年前	<input type="text" value="A"/>
約100年前	<input type="text" value="B"/>
約50年前	<input type="text" value="C"/>
今	<input type="text" value="D"/>

<結果> 3 1 正答率 80.4% (正答...ア)

<分析>

この設問は、昔の道具の特徴を観察し、今からどれくらい前のものなのかをとらえ、年表に整理することができるかをみる問題である。正答率は、80.4%で、中学年において、観察や調査・見学活動が多く位置付けられ、発見したことや調べたことを表現する学習の充実が図られている成果であるといえる。誤答をみるとイが多く、道具の特徴を実感をもってとらえるとともに、人々の生活の変化とつなげてとらえることができなかつたことが要因として考えられる。

このことから、実物などに触れる体験的な活動を一層充実させるとともに、体験したことを学習のねらいを踏まえてまとめていく学習の充実を図る必要がある。

<指導方法の工夫改善>

地域の実態を生かし、観察や調査・見学などの体験的な活動を位置付け、実物に触れたり地域の人々と直接かかわったりして、社会的な事象を具体的、実感的にとらえることができる学習活動を計画的に行う。そして、体験的な活動を学習のねらいに即してまとめる活動を工夫する。

第3・4学年「古くから残る暮らしにかかわる道具」「地域に残る文化財や年中行事」の学習において

- ・博物館や郷土資料館等を積極的に活用し、学芸員などの協力を得て、昔の道具や地域に残る文化財等に触れることができるようにする。
- ・地域の高齢者や父母、文化財や年中行事の保存・継承に携わる人から直接話を聞いたり、昔の暮らしや地域の民俗芸能等を体験したりする。
- ・観察や調査・見学などの体験的な活動によって得られた資料などを整理したり、わかったことを絵図にまとめたりする活動を行う。

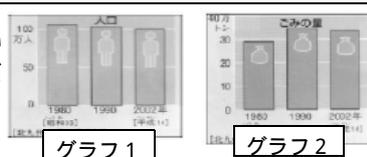
第6学年「わが国の歴史」の学習において

- ・身近な地域や国土に残されている様々な遺跡や文化財、歴史博物館などを訪ねて観察や調査・見学などの活動を位置付ける。
- ・観察や調査・見学したことを地図や年表に整理する活動を行う。

(3) 「思考・判断」の力をみる問題の例

<問題> ①の4 ③の2

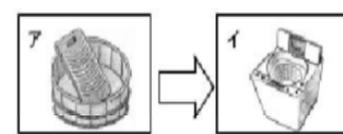
①の4 かほさんは、市役所に行き、市の人口とごみの量の変化について調べました。グラフ1、2を見て、学習課題をつくりました。どんな学習課題を考えたのか、次の文章に続くように□□□□に書きましょう。（\*□□□□内の言葉略）



グラフ1

グラフ2

③の2 太郎さんは、せんとくする道具について調べました。道具がアからイにうつりかわったことにより、人々の生活はどのようにかわったと言えますか、「時間」という言葉を使って□□□□に書きましょう。（\*□□□□内の言葉略）



ア

イ

<結果> ①の4 正答率 84.3% (正答例...略) ③の2 正答率 39.6% (正答例...略)  
<分析>

①の4は、人口の変化とごみの量の変化を比べて学習課題を考えることができるかをみる問題である。正答率は80%を上回った。このことは、日々の授業において、児童が主体的に課題を設定し追究をする問題解決的な学習を充実させてきた成果であるといえる。

一方、③の2の人々の生活の変化について、「時間」というキーワードを使って記述する問題の正答率は40%を下回った。このことは、道具や暮らしの様子にみられる人々の知恵や工夫に気付かせたり、生活の変化について考えさせたりする指導が不十分であったからだと考えられる。

このことから、書くことや仲間と話し合うことを通して考えを深めていく学習の充実を図っていく必要がある。

<指導方法の工夫改善>

調べたことや考えたことを自分の言葉でまとめ伝え合う学習活動の充実を図り、自分の考えを深めていくことができるように指導する。

すべての学年の学習において

- ・課題に対して、自分の考えたことを記述する時間を十分に確保する。その際、一人一人の記述を見届け、考えの根拠を確かめる問いかけをしたり、矢印を使った書き方を示唆したりするなど、書くことを通して考えを深めていくことができるよう指導援助を行う。
- ・自分の考えを仲間に説明する場や互いの考えを比較したり関連付けたりして吟味・検討する場を設定し、互いの考えを深めていくことができる学習の充実を図る。
- ・授業の終末には、わかったことや考えたことを重要語句（キーワード）を使って簡潔にまとめるように働きかけたり、まとめた内容を仲間と交流させたりして、自分の社会的な見方や考え方の変容に気付くことができるようにする。

3 分析を踏まえた指導改善事例

指導改善事例は、「岐阜県総合教育センターHP 教科指導等 学力向上P」授業改善(H16～H18)及び授業改善推進プラン(H19～H21)」を参照する。( <http://www.gifu-net.ed.jp/gec/> )

- 例 : 平成19年度 第5学年「情報と社会」
- ・育てたい見方・考え方を明確にして複数の視点を関連付ける授業構成に取り組んだ実践
- 例 : 平成20年度 第5学年「工業生産と貿易」
- ・単位時間で身に付ける内容を明確にするとともに、補助発問を工夫し考えを深めることに取り組んだ実践
- 例 : 平成21年度 第6学年「新しい日本 平和な日本へ～サンフランシスコ平和条約～」
- ・複数の資料から課題を追究し、互いの考えを吟味して再構成することに取り組んだ実践